

調 査 結 果 の 概 要

この結果は、平成17年度における児童、生徒及び幼児の発育状態(身長、体重及び座高)の測定値について年齢別平均値を取りまとめたものである。

1 年齢別平均値 (表1、統計表)

年齢別平均値をみると、女子の身長及び座高が、14歳(中学校3年)、15歳(高校1年)、16歳(高校2年)で調査開始以来最高(過去最高と同値を含む。以下「過去最高」という。)となった。

(1) 身 長

ア 男子は、各年齢とも過去最高と同値又は超える数値がなかった。

イ 女子は、14歳(中学校3年)が157.5cm、15歳(高校1年)が158.2cm、16歳(高校2年)が158.7cmでそれぞれ過去最高となった。

(2) 体 重

ア 男子は、各年齢とも過去最高と同値又は超える数値がなかった。

イ 女子は、各年齢とも過去最高と同値又は超える数値がなかった。

(3) 座 高

ア 男子は、各年齢とも過去最高と同値又は超える数値がなかった。

イ 女子は、14歳(中学校3年)が85.1cm、15歳(高校1年)が85.6cm、16歳(高校2年)が85.8cmでそれぞれ過去最高となった。

表1 年齢別身長、体重、座高の平均値 (平成17年度)

(単位:cm, kg)

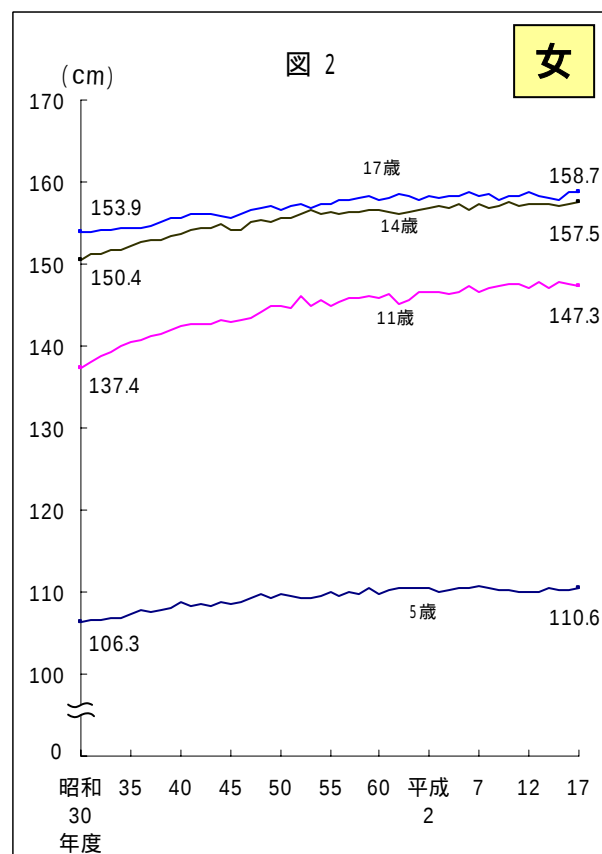
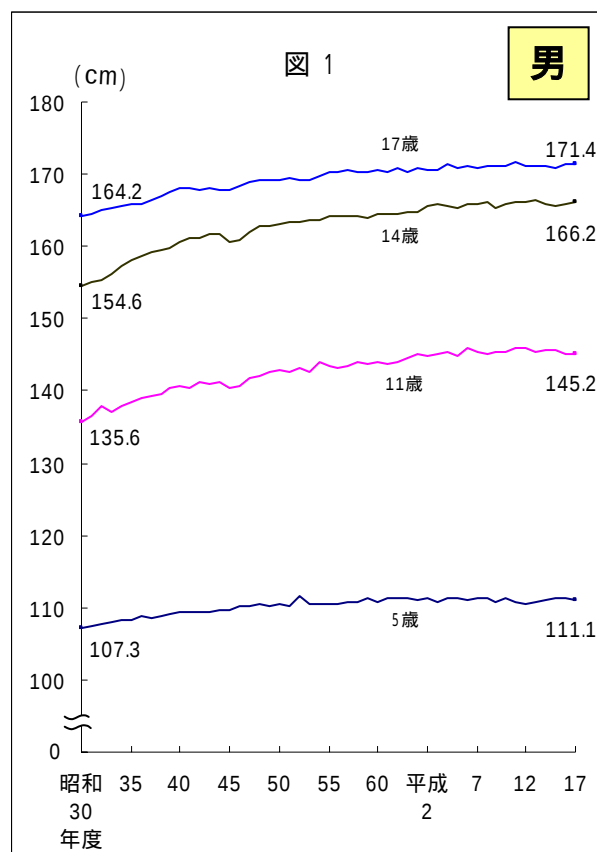
区 分	男 子			女 子		
	身 長	体 重	座 高	身 長	体 重	座 高
5歳 (幼稚園)	111.1	19.2	61.9	110.6	19.0	61.8
6歳 (小学校1年)	116.8	21.8	64.8	115.8	21.2	64.6
7 (2年)	123.3	24.6	68.0	122.2	23.7	67.5
8 (3年)	128.2	27.1	70.1	127.6	26.7	70.0
9 (4年)	134.0	31.4	72.9	133.7	29.9	72.9
10 (5年)	139.5	35.0	75.3	140.2	34.1	76.1
11 (6年)	145.2	39.1	77.7	147.3	39.5	79.5
12歳 (中学校1年)	152.4	44.8	81.1	152.7	44.0	82.2
13 (2年)	160.7	50.9	85.3	155.5	48.1	83.9
14 (3年)	166.2	56.0	88.4	157.5	50.7	85.1
15歳 (高校1年)	168.6	60.7	90.3	158.2	52.3	85.6
16 (2年)	170.4	62.8	91.1	158.7	53.0	85.8
17 (3年)	171.4	63.6	91.9	158.7	53.8	85.8

注) 網掛けは、調査開始(昭和23年度)以来の最高値(過去最高と同値を含む)である。

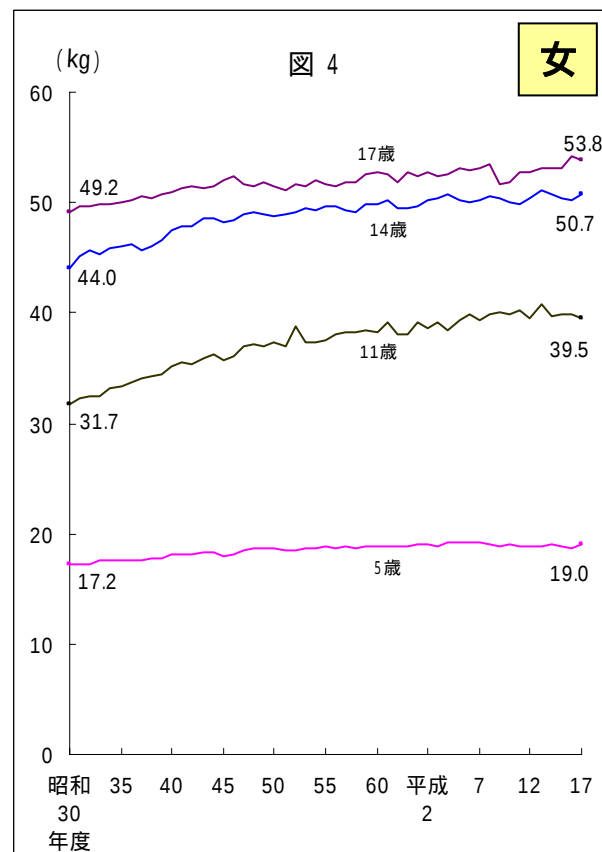
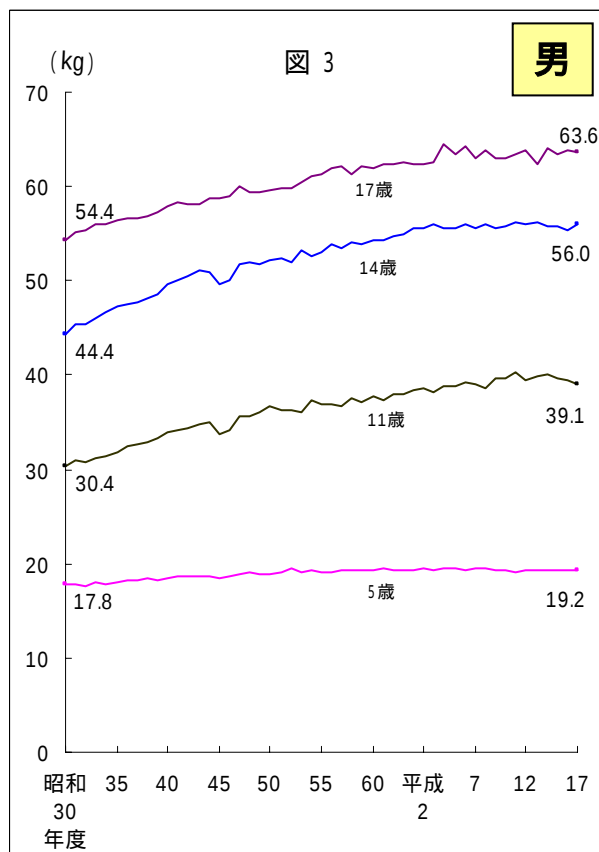
2 50年前(昭和30年度)との比較 (図1、図2、図3、図4、統計表)

今年度の5歳(幼稚園)、11歳(小学校6年)、14歳(中学校3年)、17歳(高校3年)の結果を50年前の昭和30年度と比較すると、最も伸びが大きかったのは、身長では男子の14歳(166.2cm)が11.6cm、女子の11歳(147.3cm)が9.9cm、体重では、男子の14歳(56.0kg)が11.6kg、女子の11歳(39.5kg)が7.8kgとなった。

身長の平均値の推移（昭和30年度～平成17年度）



体重の平均値の推移（昭和30年度～平成17年度）



幼稚園、小学校、中学校及び高等学校の最高学年の結果を表示した。

3 年齢間比較（表2）

年齢間の差を比較すると、男子は身長、体重、座高とも「12～13歳」で最大となった。

女子は、身長、体重、座高とも「10～11歳」で最大となった。

表2 年 齢 間 差（平成17年度）

(単位:cm, kg)

区 分	男 子			女 子		
	身 長	体 重	座 高	身 長	体 重	座 高
5～6歳	5.7	2.6	2.9	5.2	2.2	2.8
6～7	6.5	2.8	3.2	6.4	2.5	2.9
7～8	4.9	2.5	2.1	5.4	3.0	2.5
8～9	5.8	4.3	2.8	6.1	3.2	2.9
9～10	5.5	3.6	2.4	6.5	4.2	3.2
10～11	5.7	4.1	2.4	7.1	5.4	3.4
11～12	7.2	5.7	3.4	5.4	4.5	2.7
12～13	8.3	6.1	4.2	2.8	4.1	1.7
13～14	5.5	5.1	3.1	2.0	2.6	1.2
14～15	2.4	4.7	1.9	0.7	1.6	0.5
15～16	1.8	2.1	0.8	0.5	0.7	0.2
16～17	1.0	0.8	0.8	0.0	0.8	0.0

注) 網掛けは、間差の最大値を示す。

4 男女間比較（表3）

同年齢の男子と女子とを比較すると、5歳から9歳までは身長、体重、座高ともに女子を上回っているが、10歳の身長、座高、11歳の身長、体重、座高、12歳の身長、座高で女子が男子をそれぞれ上回っている。

13歳から身長、体重、座高ともに男子が女子との差を広げ、男女差が最大になる時期は17歳である。

表3 年 齢 別 男 女 差（平成17年度）

(単位:cm, kg)

区 分	身 長	体 重	座 高
5歳（幼稚園）	0.5	0.2	0.1
6歳（小学校1年）	1.0	0.6	0.2
7（2年）	1.1	0.9	0.5
8（3年）	0.6	0.4	0.1
9（4年）	0.3	1.5	0.0
10（5年）	*0.7	0.9	*0.8
11（6年）	*2.1	*0.4	*1.8
12歳（中学校1年）	*0.3	0.8	*1.1
13（2年）	5.2	2.8	1.4
14（3年）	8.7	5.3	3.3
15歳（高校1年）	10.4	8.4	4.7
16（2年）	11.7	9.8	5.3
17（3年）	12.7	9.8	6.1

注) *印は、女子の数値が男子を上回っていることを示す。

5 世代間比較（表4、表5、図5、図6、図7、図8）

(1) 男 子

昭和62年度生まれ(今年度17歳)と30年前の昭和32年度生まれ(親の世代)を比較すると、5歳では昭和62年度生まれが身長2.5cm、体重1.2kg上回っている。世代間差が最大になるのは、身長が12歳及び13歳で6.5cm、体重が12歳で7.2kgとなり、いずれも昭和62年度生まれが上回っている。

また、それぞれの世代の年間発育量をみると、最大となる時期は、身長では昭和62年度生まれが11歳、親の世代が13歳、体重では昭和62年度生まれが10歳、11歳、12歳、親の世代が13歳となった。

表4 昭和62年度生まれと昭和32年度生まれ男子の比較

(単位:cm, kg)

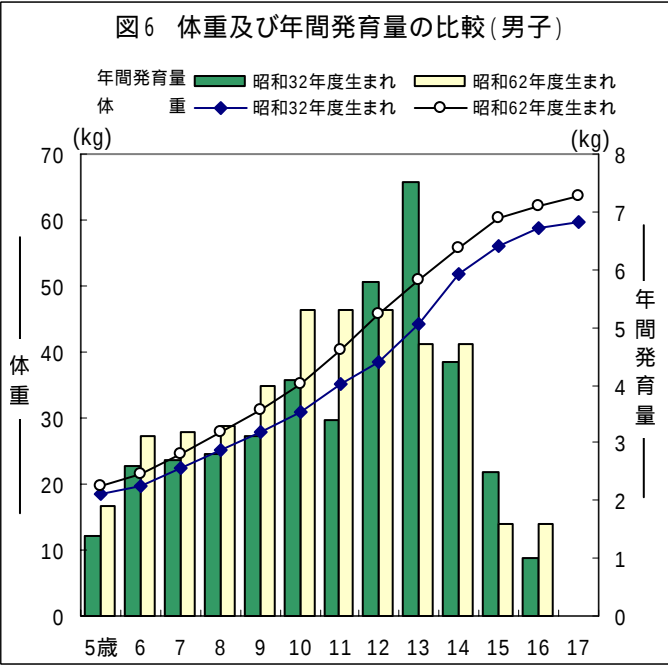
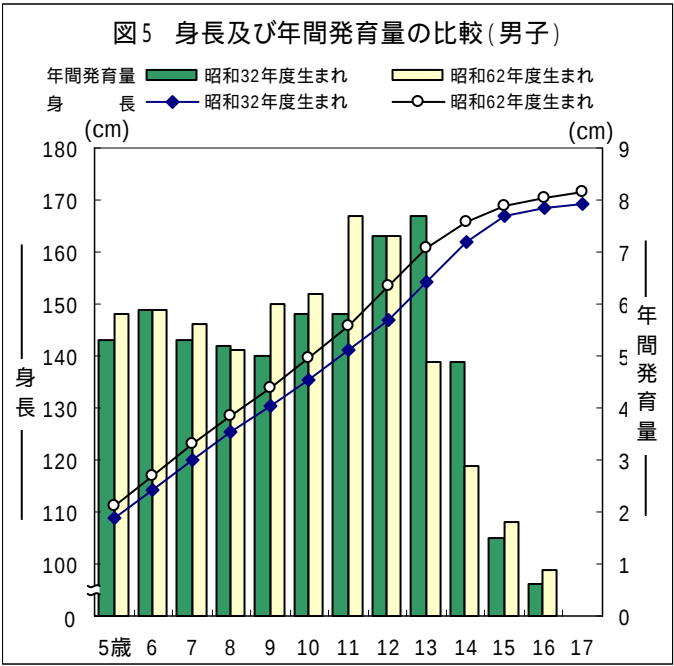
区 分	身 長					体 重				
	昭和62年度生まれ	年 間 発 育 量	昭和32年度生まれ	年 間 発 育 量	世 代 間 差	昭和62年度生まれ	年 間 発 育 量	昭和32年度生まれ	年 間 発 育 量	世 代 間 差
5歳 (幼稚園)	111.3	5.8	108.8	5.3	2.5	19.6	1.9	18.4	1.4	1.2
6歳 (小学校1年)	117.1	5.9	114.1	5.9	3.0	21.5	3.1	19.8	2.6	1.7
7 (2年)	123.0	5.6	120.0	5.3	3.0	24.6	3.2	22.4	2.7	2.2
8 (3年)	128.6	5.1	125.3	5.2	3.3	27.8	3.3	25.1	2.8	2.7
9 (4年)	133.7	6.0	130.5	5.0	3.2	31.1	4.0	27.9	3.1	3.2
10 (5年)	139.7	6.2	135.5	5.8	4.2	35.1	5.3	31.0	4.1	4.1
11 (6年)	145.9	7.7	141.3	5.8	4.6	40.4	5.3	35.1	3.4	5.3
12歳 (中学校1年)	153.6	7.3	147.1	7.3	6.5	45.7	5.3	38.5	5.8	7.2
13 (2年)	160.9	4.9	154.4	7.7	6.5	51.0	4.7	44.3	7.5	6.7
14 (3年)	165.8	2.9	162.1	4.9	3.7	55.7	4.7	51.8	4.4	3.9
15歳 (高校1年)	168.7	1.8	167.0	1.5	1.7	60.4	1.6	56.2	2.5	4.2
16 (2年)	170.5	0.9	168.5	0.6	2.0	62.0	1.6	58.7	1.0	3.3
17 (3年)	171.4	...	169.1	...	2.3	63.6	...	59.7	...	3.9
総発育量	60.1		60.3			44.0		41.3		

注1) 年間発育量とは、例えば、昭和62年度生まれの「5歳時」の年間発育量を算出する場合、平成6年度調査6歳の者の体位から平成5年度調査5歳の者の体位を引いたものである。

2) 総発育量は、17歳の者の体位から5歳の者の体位を差し引いたものである。

3) 網掛けの数値は、年間発育量の最大値及び世代間差の最大値である。

4) 昭和32年度生まれの12歳と13歳の数値は、都道府県集計が行われなかったため、全国値を掲載した。



(2) 女 子

昭和62年度生まれと30年前の昭和32年度生まれ(親の世代)を比較すると、5歳では、昭和62年度生まれが身長2.7cm、体重1.4kg上回っている。世代間差が最大になるのは、身長が11歳で4.4cm、体重が12歳で4.3kgとなり、いずれも昭和62年度生まれが上回っている。

また、それぞれの世代の年間発育量をみると、最大となる時期は、どちらの世代でも身長、体重ともに10歳となった。

表5 昭和62年度生まれと昭和32年度生まれ女子の比較

(単位:cm, kg)

区 分	身 長					体 重				
	昭和62年度生まれ	年 間 発育量	昭和32年度生まれ	年 間 発育量	世 代 間 差	昭和62年度生まれ	年 間 発育量	昭和32年度生まれ	年 間 発育量	世 代 間 差
5歳 (幼稚園)	110.5	6.6	107.8	5.4	2.7	19.2	2.4	17.8	1.4	1.4
6歳 (小学校1年)	117.1	5.0	113.2	5.6	3.9	21.6	2.4	19.2	2.5	2.4
7 (2年)	122.1	5.8	118.8	5.9	3.3	24.0	3.2	21.7	2.6	2.3
8 (3年)	127.9	6.0	124.7	5.4	3.2	27.2	3.4	24.3	3.3	2.9
9 (4年)	133.9	6.3	130.1	6.3	3.8	30.6	4.1	27.6	3.7	3.0
10 (5年)	140.2	7.3	136.4	6.7	3.8	34.7	5.5	31.3	4.9	3.4
11 (6年)	147.5	4.9	143.1	5.3	4.4	40.2	4.7	36.2	4.4	4.0
12歳 (中学校1年)	152.4	3.0	148.4	4.0	4.0	44.9	3.3	40.6	4.7	4.3
13 (2年)	155.4	1.8	152.4	2.8	3.0	48.2	2.6	45.3	3.6	2.9
14 (3年)	157.2	0.5	155.2	1.0	2.0	50.8	1.3	48.9	1.8	1.9
15歳 (高校1年)	157.7	0.4	156.2	0.6	1.5	52.1	0.9	50.7	1.3	1.4
16 (2年)	158.1	0.6	156.8	-0.1	1.3	53.0	0.8	52.0	-0.5	1.0
17 (3年)	158.7	...	156.7	...	2.0	53.8	...	51.5	...	2.3
総発育量	48.2		48.9			34.6		33.7		

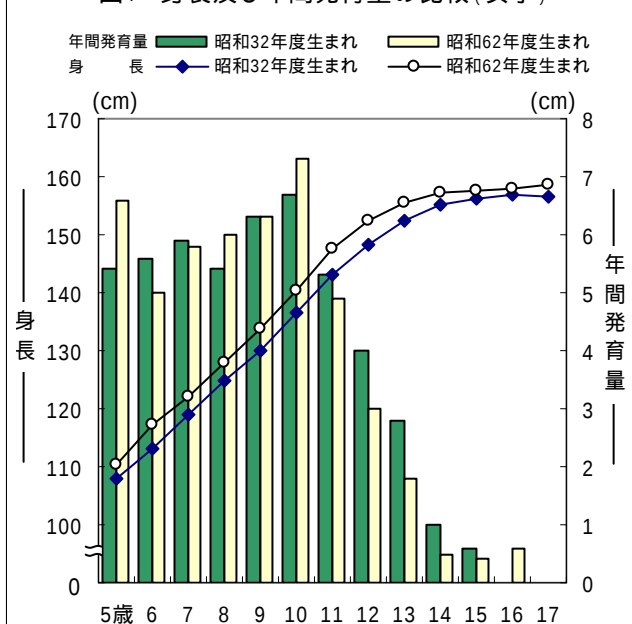
注1) 年間発育量とは、例えば、昭和62年度生まれの「5歳時」の年間発育量を算出する場合、平成6年度調査6歳の者の体位から平成5年度調査5歳の者の体位を引いたものである。

2) 総発育量は、17歳の者の体位から5歳の者の体位を差し引いたものである。

3) 網掛けの数値は、年間発育量の最大値及び世代間差の最大値である。

4) 昭和32年度生まれの12歳と13歳の数値は、都道府県集計が行われなかったため、全国値を掲載した。

図7 身長及び年間発育量の比較(女子)



注) 年間発育量が負数になった16歳時については、表示を省略した。

図8 体重及び年間発育量の比較(女子)

